

記紀・万葉ふるさとフェスティバル

ステージ 3rd.

開館 7 周年記念

琴と尺八の宴（うたげ）

～古今で奏でる万葉の曲～

藤岡家所蔵琴・江戸時代（部分）
画面背景も

平成 27 年 11 月 11 日（水）

午後 1 時～ 特別出演ウクレレ奏者 HOOK
imagine 日本の故郷

午後 1 時半～2 時半
琴和会（島田響湖代表）
尺八 山原啓山

入館料のみ（高校生以上 300 円・小中学生 200 円）

お食事ご希望の方は
かめくま松花堂（別途 1400 円）
お食事の方はご予約下さい



松花堂（内容は一部変わります）



琴和会

島田響湖



山原啓山

HOOK

吉野・飛鳥など、古代「記紀・万葉」の故地を巡る音楽を、藤岡家所蔵古琴の名器の調べが奏でます。毎年開館記念日に演奏の琴和会と山原啓山師に加え、今回は新追気鋭のウクレレ奏者 HOOK が日本の風景への想いをウクレレで演奏します

登録有形文化財「藤岡家住宅」 NPO法人 うちの館（やかた）
〒637・0016 奈良県五條市近内町 526
電話とファックス 0747（22）4013・info@uchinono-yakata.com
月曜休館・月曜が祝日のときは翌日休館・9時～16時・高校生以上 300 円・省中学生 200 円

「記紀・万葉」県民活動支援補助金採択事業

「記紀・万葉」ふるさとフェスティバルステージ3rd.

開館7周年記念・琴と尺八の宴 ～古今で奏でる万葉の曲～

琴和会（島田響湖代表）・尺八 山原啓山



藤岡家所蔵琴の内「まる儀」明治時代

資料「記紀・万葉」と五條について 3「古事記」「日本書紀」の熊野・吉野・阿陀（五條）「古事記」中巻

かむやまとのいわれびこのみこと
は神倭伊波礼毗古命（神武天皇）が熊野から川伝いに阿陀（五條）に入られたことが記されています。「日本書紀」では、まず宇陀に入り、そこから阿陀の土地に少しの軍勢と共に吉野、阿陀を訪れたとあります。不思議な土地の神々との出会いの場面は、山深い奈良県南部の原風景の象徴のように今も人々の心を惹きつけます。川村優理

「古事記」の記述よりかれ神倭伊波礼毗古命、其地より廻りいでまして熊野の村にいたりませる時に、大きな熊、山よりい

でて則ちうせぬ。ここに神倭伊波礼毗古命、俄におえまし、また御軍皆をえてこやしき。此の時に、熊野の高倉下、太刀をもち

て、天神の御子のこやせるところにまいきて、たてまつるときに、天神の御子、則ちさめまして、「長寝しつるかも」とのり

たまひき。かれ其太刀を受け取り給ふ時に、其の熊野山の荒ぶる神、おのづから皆切り倒さえて、かのをえこやせる御軍、こ

とごとくにさめたりき。かれ天神の御子、其の横刀をえつるゆえを問ひたまへば、高倉下答へもうさく、「己れ夢に天照大御神、

高木神、二柱の神の命もちて、建御雷神を召して詔り給はく、「葦原の中つ国は、いたくさやぎてありけり。あが御子たち、

やくさみすらし。かの葦原の中つ国は、もはらいましが事むけつる国なれば、汝建御雷神降りてよ」とのり給ひき。ここに

御答まをさく、「おのれ降らずとも、もはら其の国むけし横刀あれば、降してむ。この刀を降さむさまは、高倉下が倉の頂を穿

ちて、うこよりおとし入れむ」と申したまひき。「かれあさめよくいまし取りもちて、天神の御子にたてまつれ」と教へたまひ

き。かれ夢の教のままに、つとめておのが倉を見しかば、まことに横刀ありき。かれこの太刀はたてまつるにこそ」とまをし

き。ここにまた高木大神の命もちて、さとしまをしたまはく、「天神の御子こより奥つ方にな入りましう。荒振神いと多かり。

今天より八咫鳥をおこさむ。かれ其の八咫鳥導きてむ。其のたむしりよりいでますべし」とさとし白したまひき。かれ其の

みさとしのまにまに、其の八咫鳥の後よりいでまししかば、吉野河の河尻に到りましき。時に筥をうちて、魚とる人ありき。

ここに天つ神の御子、「汝は誰ぞ」と問はしければ、「あは国つ神、名は贅持の子」とまをしき。そこよりいでませば、尾ある

人井よりいでく。其の井光れり。「汝は誰ぞ」と問はせば、あは国つ神、名は井氷鹿」と申しき。かくて其の山に入りまししか

ば、また尾ある人あへり。この人巖を押し分けていで来。「汝は誰ぞ」と問はせば、「あは国つ神。名は石押分の子。今天神の

御子いでますと聞きける故に、まいむかえまつるにこそと申しき。そこよりふみうがちこえて宇陀にいでましき。かれ宇陀

の穿とぞいふ。「改正 高等国文」明治三十二年十月六日 発行 より

「日本書紀」（現代語訳）よりこの後、（神武）天皇は吉野あたりを見たいと思われて、宇陀の穿邑から軽装の兵をつれて巡幸

された。吉野に着いたとき、人がいて井戸の中から出てきた。その人は体が光って尻尾があった。天皇は「お前は何者か」と

問われた。答えて「手前は国つ神で、名は井光といひます」と。これは吉野の首部の先祖である。さらに少し進むと。また尾

のある人が岩をおしわけて出て来た。天皇は「お前は何者か」と問われた。「手前は石押分の子です」という。これは吉野の国

栖の先祖である。川に沿って西においでになると、また梁を設けて漁をする者があつた。天皇が尋ねられると、「手前は苞苴担

の子です」という。これは阿太の鵜養部の先祖である。「日本書紀（上）」全現代語訳 講談社文庫1988年 より